

## 《2018 年度 活動記録》

### 【活動概要】

2018 年

7 月 21 日(土) 2018 年度 第 1 回研究会 (首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパスにて)

講演:

・中村 浩 (北星学園大学)

「林の影の運動による色の捕捉錯視」は仮現運動と言えるか？

- そのバリエーションを基にした仮現運動の考察 -」

12 月 18 日(火) セミナー「VR技術の可能性」(首都大学東京 日野キャンパスにて)

講演:

・ヤエム ヴィボル (首都大学東京・助教)

「触覚再現とその応用」

・池井 寧 (首都大学東京・教授、serBOTinQ メンバー)

「VR と超臨場感」

ディスカッション:

スピーカー 池井 寧、ヤエムヴィボル

ファシリテーター 相野谷 威雄 氏 (serBOTinQ・マネージングディレクター)

<首都大学東京 serBOTinQ、日本ヴァーチャルリアリティ学会 VR と超臨場感研究会と共催>

2019 年

1 月 25 日(金) 講演会「人の幸せを科学する ～UX を活用したものづくりのために～」(首都大学東京 日野キャンパスにて)

講演:

・北川 智利 (立命館大学・教授、吉賀心理学研究所・代表)

「外界知覚・認知と自己(身体および心理的な特性・状態)の相互作用」

・久保田 直行 (首都大学東京・教授、serBOTinQ メンバー)

「ロボットと知覚」

ディスカッション:

スピーカー 北川 智利、久保田 直行

ファシリテーター 相野谷 威雄 氏 (serBOTinQ・Managing Director)

<首都大学東京 serBOTinQ と共催>

3 月 7 日(木) 第 27 回システム大会 (早稲田大学 西早稲田キャンパスにて)

感性・官能セッションにおいて、若手研究者による発表講演を組織、支援した。

【詳細】

---

## 2018 年度 第 1 回研究会

日時： 2018 年 7 月 21 日(土) 14:30～16:30

場所： 首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス

講演：

・中村 浩（北星学園大学）

「林の影の運動による色の捕捉錯視」は仮現運動と言えるか？

－ そのバリエーションを基にした仮現運動の考察 －

中村先生ご経歴等

<http://www2.hokusei.ac.jp/hguhp/KgApp?kyoinId=yyyygggyoi>



中村浩先生がお考えになる、“色の捕捉錯視”と“仮現運動”との関係に関する新たな解釈をわかりやすくご講演いただいた後に、異なる視点からの指摘を含め活発な検討がなされた。最後に、脳内での処理時間の多寡で、錯視の種類が切り替わるのではないかと、この考えに従うと、これまで注目されてこなかった報告の意味が再発見できる可能性を示唆していただいた。

---

## セミナー「VR技術の可能性」

日時： 2018 年 12 月 18 日(火) 15:00～17:00

場所： 首都大学東京 日野キャンパス 2号館3階301室

新商品・新サービス開発のための技術として、VR 技術の可能性についての講演をおこなった。

講演：

- ・ヤエム ヴィボル（首都大学東京・助教）  
「触覚再現とその応用」
- ・池井 寧（首都大学東京・教授、serBOTinQ メンバー）  
「VR と超臨場感」

ディスカッション：

スピーカー 池井 寧、ヤエムヴィボル

ファシリテーター 相野谷 威雄 氏 (serBOTinQ・マネージングディレクター)

ヤエム先生による触覚における錯覚研究のご紹介、池井先生によるVR技術を活用した五感ディスプレイのご紹介、テレプレゼンス体験に関する研究についてご講演いただいた。講演後のディスカッションでは、各先生の研究へのモチベーション、技術活用などに関して活発な議論がなされた。

<首都大学東京 serBOTinQ、日本ヴァーチャルリアリティ学会 VR と超臨場感研究会と共催>

---

## 講演会「人の幸せを科学する ～UX を活用したものづくりのために～」

日時： 2019 年 1 月 25 日(金) 15:00～18:00

場所： 首都大学東京 日野キャンパス 2号館 4階 401 室

講演：

- ・北川 智利（立命館大学・教授、吉賀心理学研究所・代表）  
「外界知覚・認知と自己（身体および心理的な特性・状態）の相互作用」
- ・久保田 直行（首都大学東京・教授、serBOTinQ メンバー）  
「ロボットと知覚」

ディスカッション：

スピーカー 北川 智利、久保田 直行

ファシリテーター 相野谷 威雄 氏 (serBOTinQ・Managing Director)



首都大学東京リサーチコア serBOTinQ との共同開催として実施した。serBOTinQ では、「島しょエリアの産業活性化プロジェクト」として、島しょ在住および UJI ターンを希望する人々が住み続けるために、島しょの持つ資源を基盤とした新商品・新サービス開発を提案・実施するために必要な知識および技能を身につけるためのプログラムの開発を研究している。本講演会は、「人の幸せを科学する～UX を活用したものづくりのために～」について講演とディスカッションを行う企画とした。

北川先生からは、身体近傍で生じる感覚事象として、錯覚の研究についてご紹介いただき、さらに感情特性や状態そして最近注目されているマインドフルネスと知覚の関係についても紹介し、瞑想体験を行った。久保田先生からは、AI の技術が発達してきている中で、人間が何を目標しているかについてご講演いただいた。人間へ感覚情報を提示する際やロボットが人間と関わる際に、人間の知覚の身体性や心理的特性・状態をどのように扱うべきか、などについて議論を深められた。

<首都大学東京 serBOTinQ と共催>

---

## 第 27 回システム大会

日時： 2019 年 3 月 7 日(木)～8 日(金)

場所： 早稲田大学 西早稲田キャンパス 55N 号館 1 階大会議室

感性・官能セッションにおいて、若手研究者による発表講演を組織、支援した。また、特別講演会(夜話)では、当部会の元部会長である山下利之先生にご講演いただいた。

3 月 7 日(木) 感性・官能セッション： 座長 石原正規 (首都大学東京)

1 佐藤 壮平 (首都大学東京大学院)

「動き画質に関する一対比較法による検討」

2 堀内 健太郎 (首都大学東京大学院)

「拡大・縮小する動的視覚刺激に対する静止立位姿勢制御の機能的特徴について」

3 大始良 義将 (拓殖大学大学院)

「波形描画による評価方法に見る心理変化可視化の有用性」

4 深井 健登 (首都大学東京)

「意図的忘却における代替思考の内容別の効果」

5 瀬谷 安弘 (愛知淑徳大学)

「セルフトークがバドミントンパフォーマンスに及ぼす影響」

3 月 8 日(金) 特別講演会(夜話)：

・山下 利之 (首都大学東京 人文社会学部 教授)

「感情と顔－基礎研究から応用まで－」

(講演要旨)

心理学における感情と顔(特に表情からの感情認知)に関する研究は多岐に渡り、膨大である。ここでは、感情に関する基礎研究を3つの観点から簡単に俯瞰するとともに、演者らが行ってきた感情と顔を用いた応用的事例について紹介する。

---